

アンケート 「リサイクルとリユース」 結果報告書

目 次

はじめに	1ページ
調査の概要と回答者プロフィール	2ページ
「家電リサイクル法」 施行後1年	3～10ページ
自動車、家庭用パソコンのリサイクル	11ページ
リサイクル製品とリユース製品	12～16ページ
自由記述	17～18ページ

2002年6月

財団法人 経済広報センター

はじめに

弊センターは、広く社会の声を聴き、それを企業（経済界）活動に活かすことを目的に社会広聴活動を行なっております。

そのために、社会の声の代弁者として全国に在住する就学者・就業者・専業主婦(夫)・年金生活者等を「社会広聴会員」として組織化(4,703名、そのうちeネット会員1,009名=2002年6月1日現在)し、いろいろな活動を続けております。

その広聴活動のひとつに、時宜に合ったテーマをもとに、毎年数回行なうアンケート調査があります。

今回は、「家電リサイクル法」が施行されて1年経過したこともあり、「リサイクルとリサイクル・リユース製品」のテーマでeネット会員1,009名を対象にインターネットによる調査をいたしました。

ここに集計結果をご報告させていただきますので、何かのご参考にしていただければ幸いです。

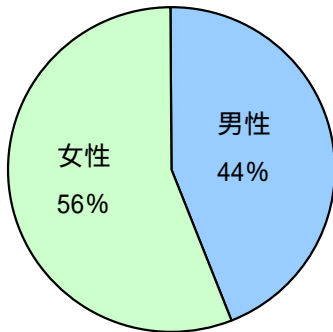
財団法人 経済広報センター
主任研究員 林祐輔

【1】調査の概要と回答者のプロフィール

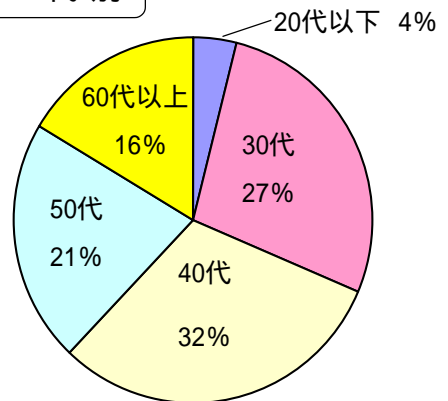
調査の概要

- (1) 調査名称 : 「リサイクルとリユース」
- (2) 調査対象 : 財団法人 経済広報センターに登録しているインターネット社会広聴会員1,009名
- (3) 調査方法 : インターネットによる、回答選択方式および自由記述方式
- (4) 調査期間 : 2002年5月17日～5月27日
- (5) 有効回答 : 805名 (79.8%)

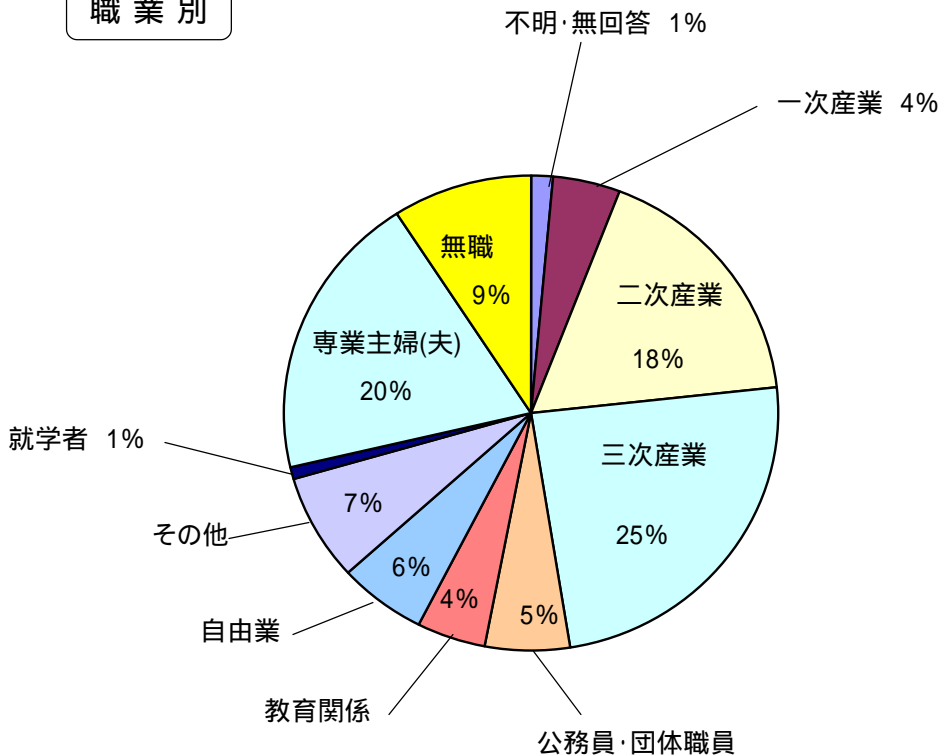
性別



世代別



職業別



【2】「家電リサイクル法」

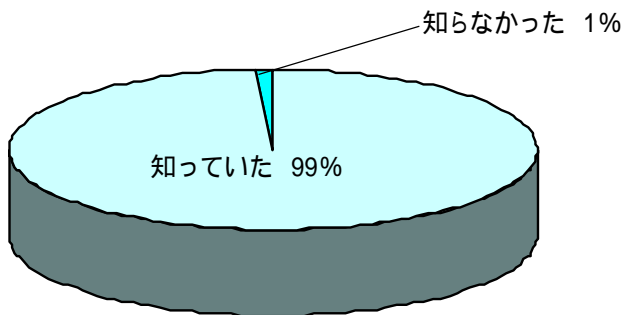
(1) 「家電リサイクル法」の認知度

「法律を知っている」のは 99%、そのうち「対象4製品とも知っている」は 64%

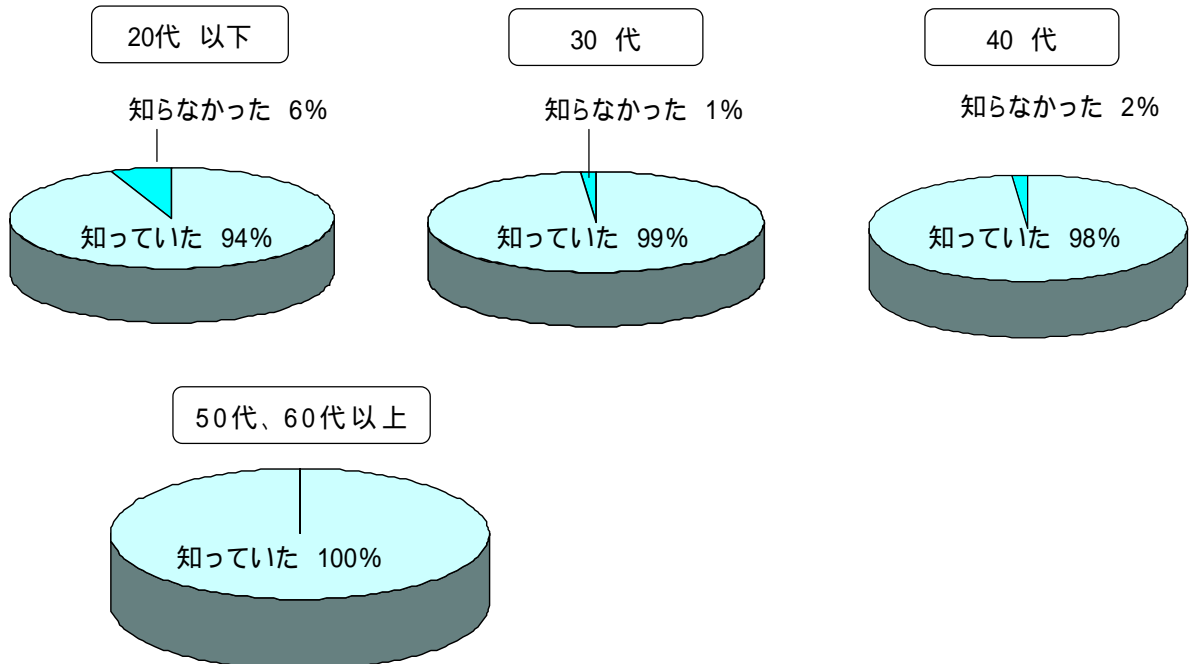
昨年4月に施行された「家電リサイクル法」について聞いた。

法律そのものを知っていると答えた人は99%だった。世代別に見ると、50代と60代以上は100%だが、20代以下は94%と低かった。

Q「家電リサイクル法」の認知度(全員:805名)



Q「家電リサイクル法」の世代別の認知度(全員:805名)



【2】「家電リサイクル法」

(2) 「家電リサイクル法」の対象製品とリサイクル料金の負担の認知度

「対象4製品とも知っている」は64%
リサイクル料金の負担を知っていたのは96%

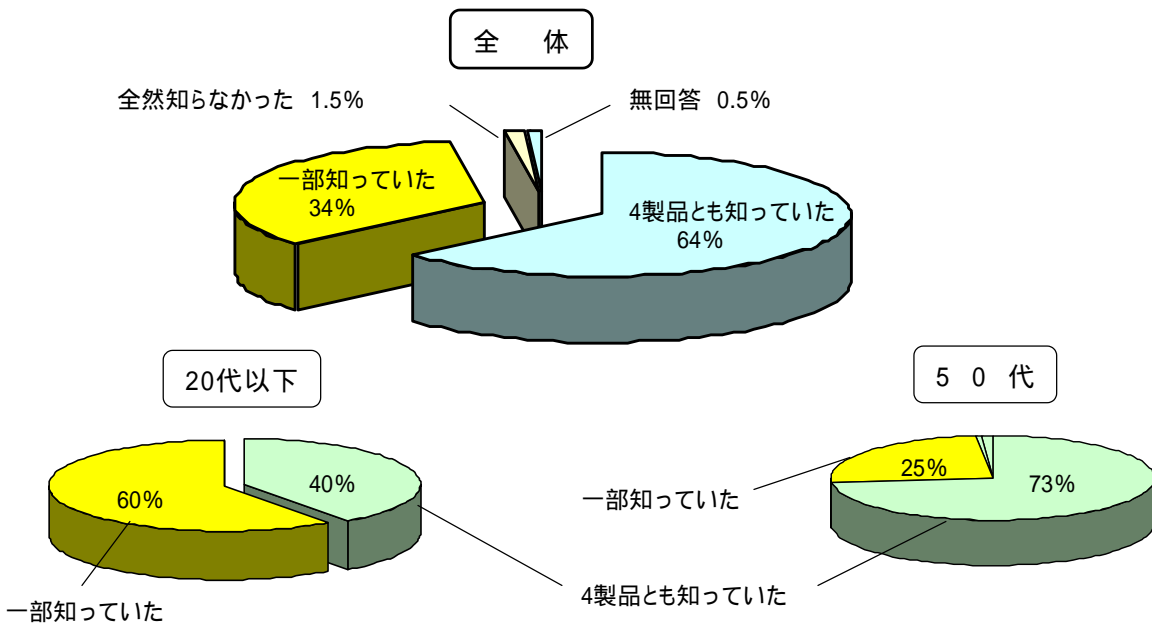
「家電リサイクル法」の対象製品とリサイクル料金の消費者負担について聞いた。

「法律を知っている」人の中で、対象4製品とも知っているのは64%だった。

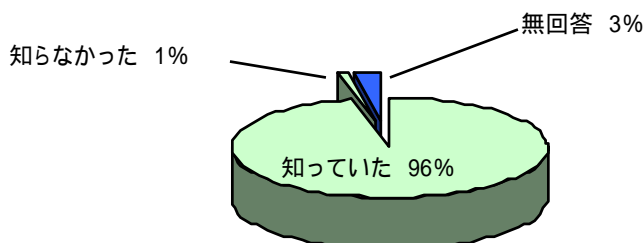
世代別に見ると、世代が上がるほど高くなっており、20代以下が40%と低いのに対し、50代では73%だった。

また「法律を知っている」人の中で、消費者もリサイクル料金や運搬費用を負担しなければならないことについては、96%が知っていた。

Q対象製品の認知度(「法」を知っていた人:796名)



Qリサイクル料金負担の認知度(「法」を知っていた人:796名)



【2】「家電リサイクル法」

(3) 「家電リサイクル法」施行後での対象4製品の処分

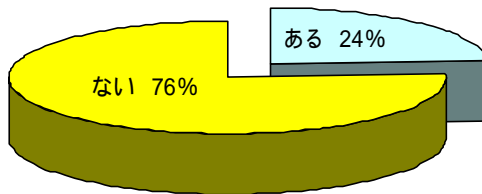
「廃棄・売却・譲渡をしたことがある」は24%
そのうち、「リサイクル料金・運搬費を支払った」は86.5%

昨年の4月から今回の調査までの間に、家電リサイクル対象製品を廃棄・売却・譲渡をしたことがあるかどうかを聞いた。

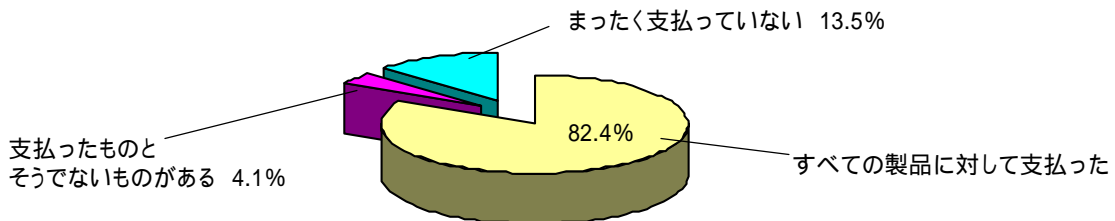
「ある」は24%だった。

その中で、リサイクル料金・運搬費を支払った人は86.5%だった。

Q家電リサイクル対象製品の処分の有無 (全員:805名)



Qリサイクル料金の支払いの有無 ('処分したことがある'人:193名)



【2】「家電リサイクル法」

(4) 廃棄した対象4製品と支払ったリサイクル料金

台数は「テレビ」、「洗濯機」、「冷蔵庫」、「エアコン」の順
支払い先のトップは「販売店」で87.1%

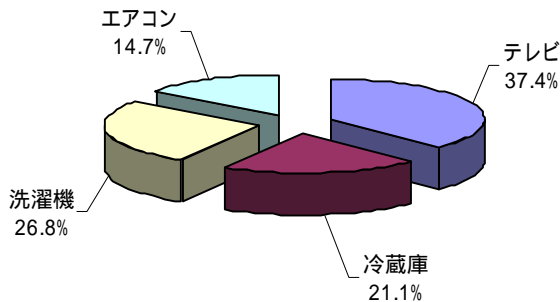
リサイクル料金を支払って廃棄した製品名、それぞれの料金、支払い先について聞いた。

最も多いのが「テレビ」で37.4%、以下「洗濯機」(26.8%)、「冷蔵庫」(21.1%)、「エアコン」(14.7%)だった。

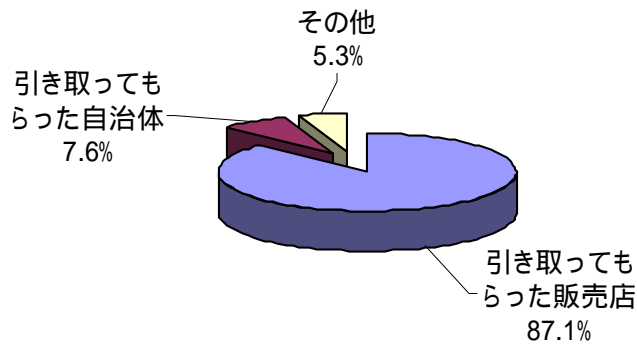
支払ったリサイクル料金の平均は、「テレビ」が約2,800円、「洗濯機」が約4,000円、「冷蔵庫」が約4,100円、「エアコン」が約4,700円だった。

支払い先は「引き取ってもらった販売店」が87.1%で最も多く、次いで「自治体」の7.6%だった。

Qリサイクル料金を支払って廃棄した製品（「支払った」人：167名、複数回答）



Qリサイクル料金の支払い先（「支払った」人：167名、複数回答）



【2】「家電リサイクル法」

(5) リサイクル料金を実際に負担して感じたこと

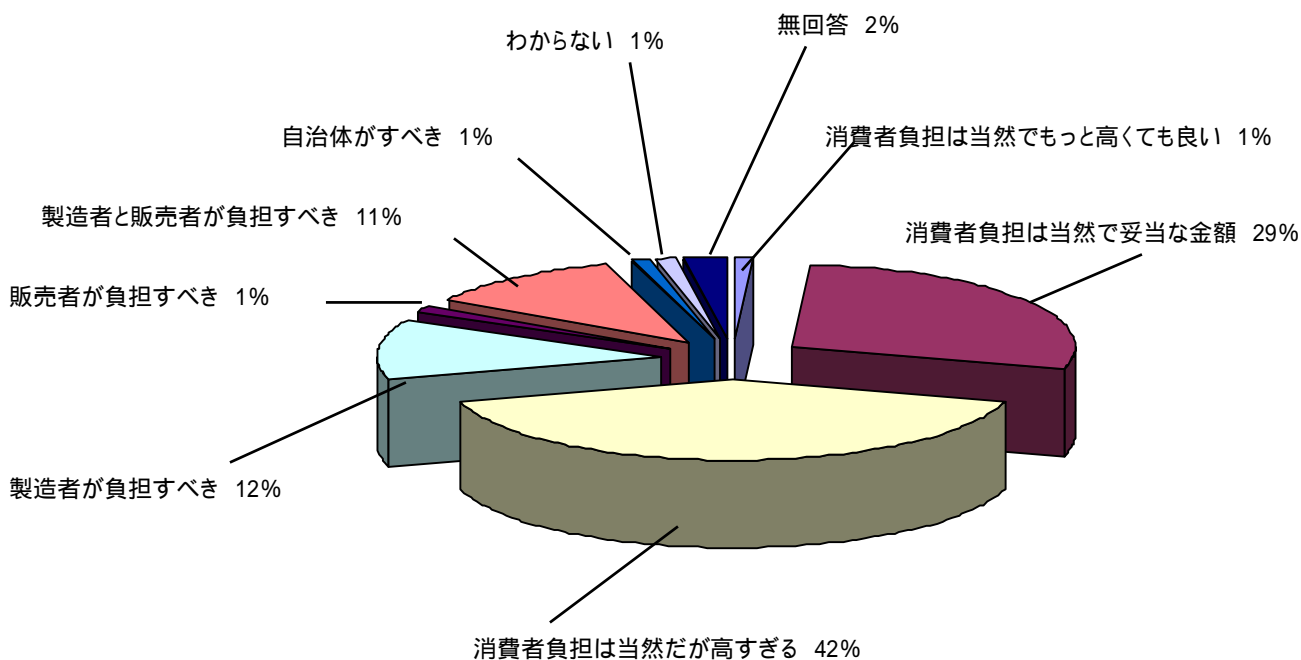
72% が「消費者負担は当然」、24%は「製造者や販売者が負担すべき」

実際にリサイクル料金を負担して、どのように感じたかを聞いた。

「消費者負担は当然」が72%だった。しかしその内訳は、「高すぎる」が42%、次いで「妥当な金額」が29%、「もう少し高くても良い」が1%だった。

「製造者や販売者が負担すべき」は24%だった。

Qリサイクル料金を支払って廃棄しての感想（「支払った」人：167名）



【2】「家電リサイクル法」

(6) 対象4製品を廃棄しながら、リサイクル料金を支払わなかった理由

最も多いのは「販売店が無料で引き取った」で38.2%

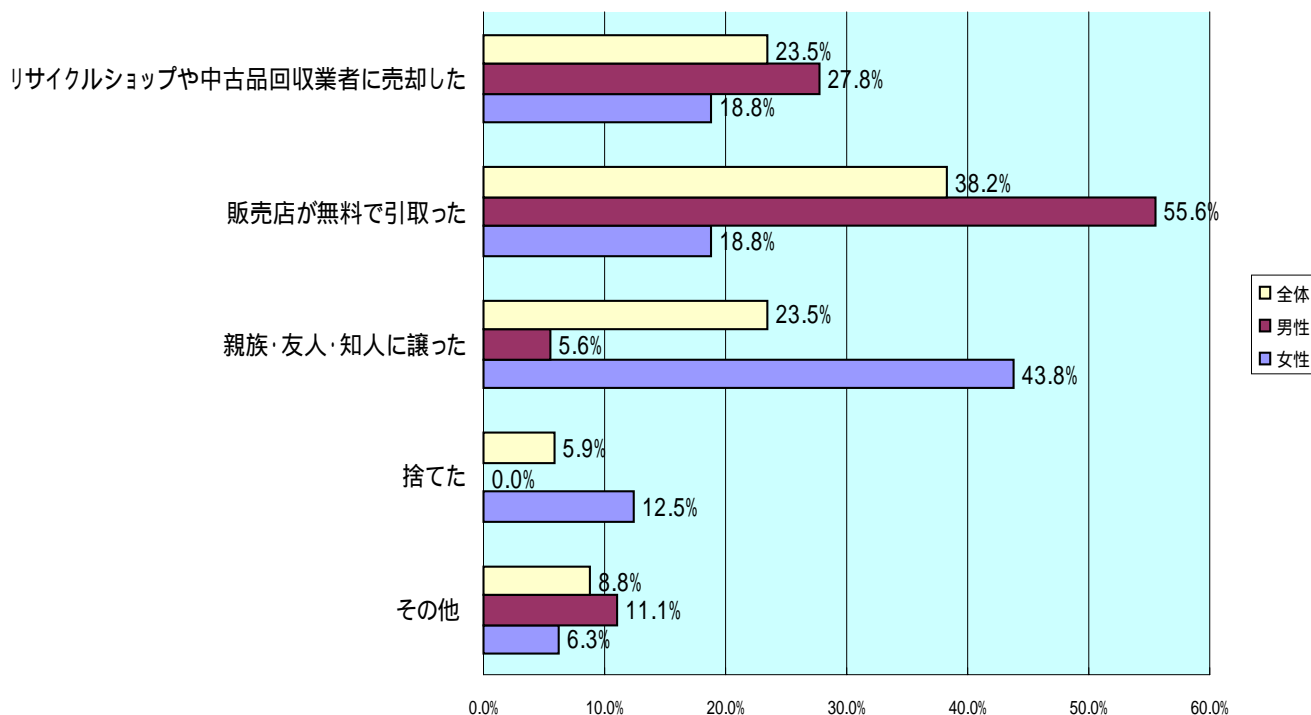
対象4製品を廃棄しながら、リサイクル料金を支払わなかった理由を聞いた。

「販売店が無料で引き取った」が最も多く38.2%、次いで「売却」と「譲渡」が、共に23.5%だった。

ただ、男女で大きな差がある。男性の場合「販売店が無料で引き取った」が55.6%で最も多かったのに対し、女性は「譲渡した」が43.8%で、最も多かった。

「捨てた」が5.9%あったが、20代と40代の女性だった。

Qリサイクル料金を支払わなかった理由（「支払わなかった」人：34名、複数回答）



【2】「家電リサイクル法」

(7) 「家電リサイクル法」についての自由記述

20代の意見

リサイクル費用は、製造者、販売者、消費者が平等に負担すべきものである。廃家電の不法投棄等が行なわれないための体制整備が必要。

(20歳代 / 男性 / 会社員)

メーカー側はできる限り廃棄物を出さない商品づくりをし。消費者は目移りばかりせず、購入したものを大事に使う意識を持たなければいけない。

(20歳代 / 女性 / 会社員)

中古用品店の前に廃家電を置いていく人もいと聞いています。処分に費用を払うというのには、負担感もあるので、販売価格に上乗せするのが一番すっきりと分かりやすいと思います。

(20歳代 / 女性 / 会社員)

対象品目を「テレビ」「冷蔵庫」「洗濯機」「エアコン」から、「ビデオデッキ」や「パソコン」「電子レンジ」等に広げていくのが良いと思います。

(20歳代 / 男性 / 会社員)

回収負担の義務化を図るだけでなく、修理の体制を整えたり、製品を長く使っていけるような後盾も必要だと思う。

(20歳代 / 女性 / 会社員)

地球という星の資源が枯渇すれば誰も生きてはいけない。人ごととは思わず、日々の生活を見直し「使えるものは工夫して使う」「ものを買う前に捨てる時のことを考える」といったことに注意するようになった。

(20歳代 / 女性 / 学生)

30代の意見

家電リサイクル法ができたことにより、リサイクルについて考える機会が増えるきっかけになって、大変よかったと思う。

(30歳代 / 女性 / 会社員)

家電販売店がリサイクル費用を負担しているケースもあるようだが、これでは受益者負担の意識が益々根付かないと思う。

(30歳代 / 女性 / 主婦)

リサイクル費用の負担は、購入時、排出時のどちらにも一長一短があり難しい問題だと思う。単に金額だけ聞けば誰でも余分に払いたくないと思うのが当たり前だ。金額の根拠や支払いの必要性等をもっと頻繁に周知し、国民の意識に働きかけることが必要ではないか。

(30歳代 / 女性 / 主婦)

回収された家電製品が適切な形で再利用されているのか、また、コスト負担の仕組みがどうなっているのか全く不透明。これらに関する情報が、末端消費者にまで伝わって来ていない。

(30歳代 / 女性 / 学生)

現在の家電製品のライフサイクルは短すぎると思う。メーカー側は、新商品の投入も大事だが、修理部門をもっと充実するべき。修理代の方が新品を購入するよりも高いため、しかたなく買い換えをしているものもたくさんある。

(30歳代 / 女性 / 主婦)

消費者が負担したリサイクル費用が本当にリサイクルのために使われているのか疑問。負担したお金の流れが不透明のような気がします。

(30歳代 / 女性 / 主婦)

【2】「家電リサイクル法」

(7) 「家電リサイクル法」についての自由記述

40代の意見

家電だけでなく、家具や洋服などもできるだけ長く大切に使うという気持ちになってきました。リサイクル雑誌などを見ていると、洗濯機や冷蔵庫など、まだまだ使えるものを無料で取引しているのを見かけるようになりました。
(40歳代 / 女性 / 主婦)

消費者はいいものを自分の責任において購入し長く使う。また、メーカー側はそれを助けるために性能のよいものを作る。そして、長く使ってもらえるように部品なども長期に確保する。こんな社会になったら良いと思います。
(40歳代 / 女性 / 会社員)

現在、私は家電メーカーでテレビのリサイクルに関する研究開発に携わっています。消費者の皆様の負担が少しでも軽くなるようコストダウンに取り組むとともに、リサイクル率を上げるための技術開発にも取り組んでいます。
(40歳代 / 男性 / 会社員)

使用年数の長いもの程、処理金額が安くなるシステムの方が、家電リサイクル法の運用に対する効果が大きいと思う。そうすれば出来る限り修理をして、耐用年数を向上させるようみんなが努力をすると思う。
(40歳代 / 男性 / 会社員)

実際にリサイクルを行っている現場を見学したことがあります。人手による大変な作業でしたが、あのような努力によって資源が再利用されるのを目の当たりにし、あらためて「物」を大切に必要性を痛感しました。
(40歳代 / 女性 / 会社員)

私の住む石狩市は、札幌に隣接していて格好の不法投棄場所となっています。投棄された物は石狩市が処分費用を負担する、つまり市民が他の町のリサイクル費用を払う事になるわけです。不法投棄の対応策および消費者教育の必要性を感じます。
(40歳代 / 女性 / 主婦)

50代、60代の意見

我が家では壊れた家電は修理して使うのが常識となっており、家電リサイクル法のお世話になるのは、たぶん10年以上経ってからのことではないかと思う。
(50歳代 / 女性 / 会社員)

処理内容の説明を販売店で常時表示する必要があると感じる。私の担当する環境管理論の授業で学生に聞いてみたが、知っていた学生は1割程度であった。継続したPRが重要ではないか。
(50歳代 / 男性 / 教員)

「ごみを出すのにお金がかかる」という意識を持つことが広く知れ渡るようになったことは良いことだと思います。物を購入する際に処分するときのことを考えて買う習慣がつくようになりました。
(50歳代 / 女性 / 会社員)

法律の名前は知っていても、実際の中身についての知識は曖昧です。もっと、消費者に向けてPRすることが大切ではないでしょうか。また、修理するよりも買い替えたほうが安いという現在の状況をなんとかして欲しいと思います。
(60歳代 / 男性 / 無職)

リサイクル可能な製品を作ることを義務づけ、そのリサイクルに必要な経費については、製品を使った人が負担するというのが、本来のあるべき姿だと思います。
(60歳代 / 男性 / 無職)

人里離れたところや空き地に捨てられている電気製品を見ると、なぜ販売するときにリサイクル料金を徴収する制度を作らなかったのかと、役所の人たちの責任を追及したくなります。
(60歳代 / 女性 / 主婦)

川掃除のボランティアや自然観察会で、山や川に行きますが、空き缶や廃タイヤをはじめ相変わらずごみの量は信じられない程たくさんあります。家電リサイクル法施行以後、山中に冷蔵庫や洗濯機まで捨てる人がいて、本当に情けなく思っています。
(60歳代 / 男性 / 会社員)

【3】「自動車、家庭用パソコン」のリサイクル

(8) 消費者負担について

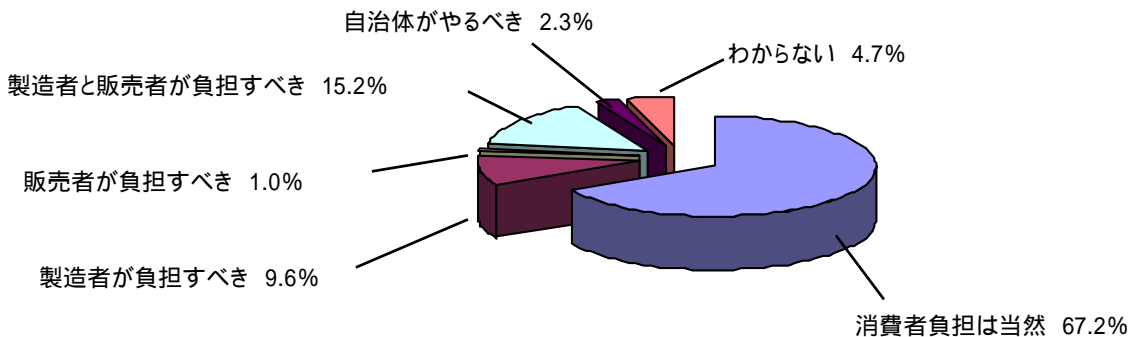
67.2%は「消費者負担は当然」、25.8%が「製造者や販売者が負担すべき」

今後、リサイクルが義務づけられる自動車と家庭用パソコンのリサイクル料金の消費者負担について聞いた。

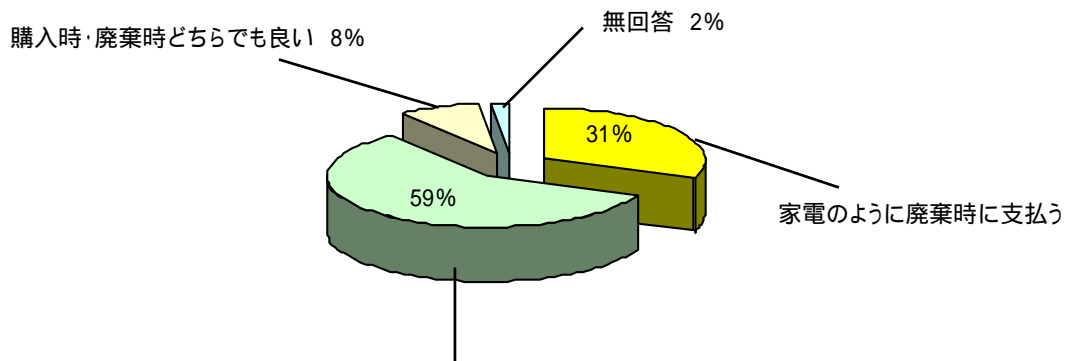
「消費者負担は当然」が67.2%で、「製造者や販売者が負担すべき」は25.8%だった。傾向的には、家電と同じだった。

「消費者負担は当然」の中で負担方法については、「購入時課金(自動車は車検時も含む)」方式が最も多く59%だった。家電のような「排出時課金」方式は31%だったが、女性や若い世代の支持率は全体より高かった。

Q自動車と家庭用パソコンのリサイクル料金の消費者負担についての意見(全員:805名)



Qリサイクル料金の消費者負担方式についての意見(「消費者負担は当然」の人:541名)



法律の施行後に購入する製品はその時に支払い、
それ以前に購入している製品は廃棄時(車は車検時)に支払う

【4】「リサイクル・リユース製品」

(9) リサイクル製品やリユース製品の購入・使用

69%が「購入・使用したことがある」。最も多いのは「書籍」で25.1%

リサイクル製品やリユース製品の購入・使用について聞いた。

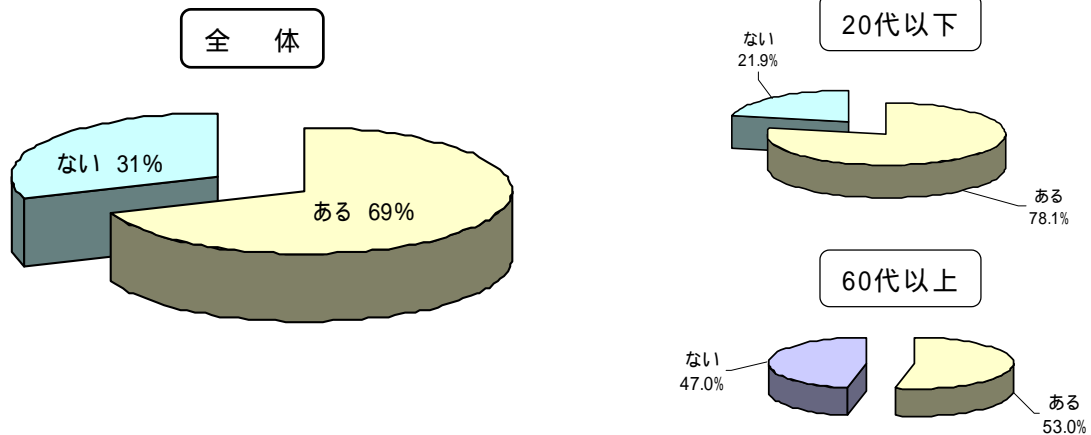
「購入・使用したことがある」は69%だった。

世代別には、若い世代ほど高く、20代以下は78.1%だが、世代が上がるほど低くなり、60代以上は53%だった。

購入・使用したことがある製品で最も多いのが「書籍」で25.1%、次いで「自動車」(15.2%)、「衣類」(14.2%)、「CD、ビデオ」(13.1%)となっている。

世代別には、「書籍」のトップは変わらないが、それ以外は各世代の特徴が出ている。

Qリサイクル製品やリユース製品を購入・使用したことがあるか(全員:805名)



Qどのようなリサイクル製品やリユース製品を購入・使用したことがあるのか(「ある」の人:556名、複数回答)

	全体		20代以下		30代		40代		50代		60代以上	
	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%
書籍		25.1		27.2		25.1		25.3		26.9		21.0
自動車		15.2		8.6		12.4		14.4		19.9		18.7
衣類		14.2		17.3		16.6		15.6		11.2		8.9
CD・ビデオ		13.1		23.5		16.6		13.7		9.8		5.1
家具		8.3		9.9		8.0		8.6		7.8		8.4
家電製品		6.1		3.7		5.0		6.3		6.7		7.9

【4】 「リサイクル・リユース製品」

(10) 使用しての感想

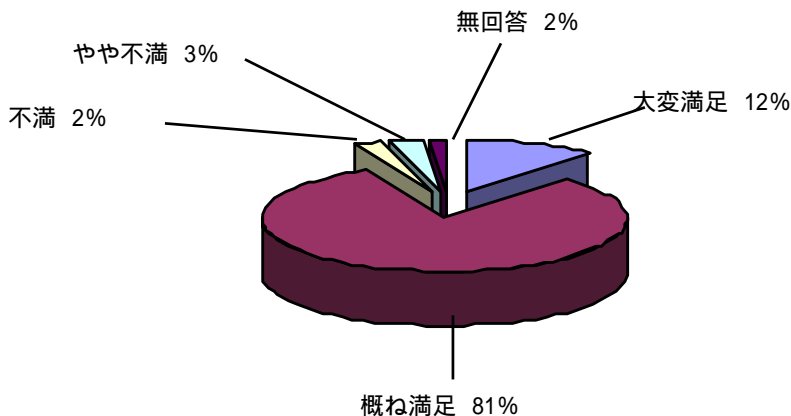
「満足」が93%。「不満」の理由のトップは「性能が悪い」で38%

リサイクル製品やリユース製品を購入・使用しての感想を聞いた。

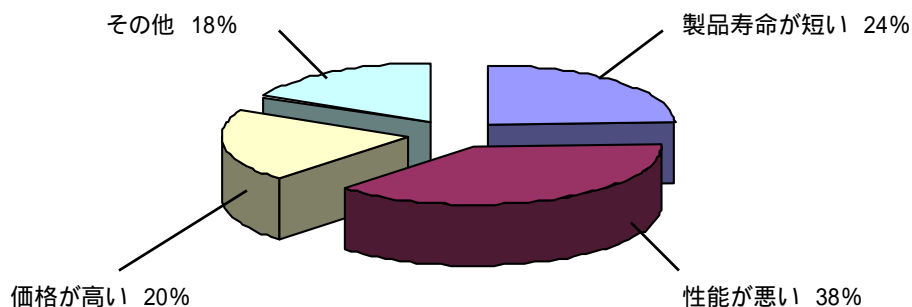
93%が「満足」。その内訳は、「概ね満足」が81%、「大変満足」が12%だった。

一方、「不満」の理由は、「性能が悪い」が38%で最も多く、以下「寿命が思ったより短い」(24%)、「価格が高い」(20%)と続いている。

Qリサイクル製品やリユース製品を購入・使用してみたの感想(「購入・使用したことがある」人:556名)



Q不満の理由(「不満」の人:29名、複数回答)



【4】 「リサイクル・リユース製品」

(11) - リサイクル製品とリユース製品を使用しない理由(全体)

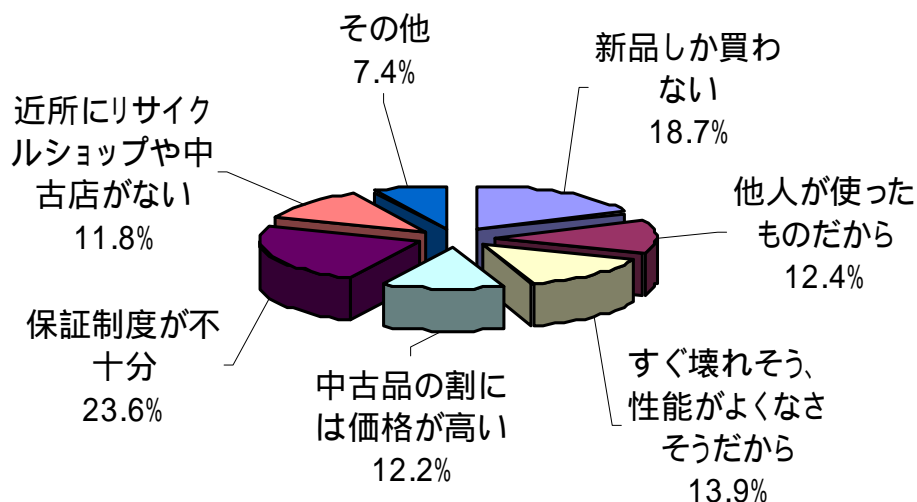
「保証制度が不十分」が23.6%でトップ

リサイクル製品やリユース製品を購入・使用しない理由を聞いた。

最も多いのは「保証制度が不十分」で23.6%、以下「新品しか使わない」(18.7%)、「すぐ壊れそう」(13.9%)と続いている。

Qリサイクル製品やリユース製品を購入・使用しない理由(「購入・使用しない」人:249名、複数回答)

全 体



【4】 「リサイクル・リユース製品」

(11) - リサイクル製品とリユース製品を使用しない理由(性別・世代別)

男女別に見ると、男性は「新品しか買わない」が21.5%でトップ、女性は、「保証制度が不十分」が26.3%でトップだった。

世代別に見ると、30代・40代・50代・60代以上のトップは全体と同様に「保証制度が不十分」であるのに対して、20代以下は「すぐ壊れそう」が28.6%で、「保証制度が不十分」は4位だった。

Qリサイクル製品やリユース製品を購入・使用しない理由(「購入・使用しない」人:249名、複数回答)

性別

	全体		男性		女性	
	順位	%	順位	%	順位	%
新品しか買わない		18.7		21.5		16.4
他人が使ったものだから		12.4		14.8		10.3
すぐ壊れそう、 性能がよくなさそう		13.9		12.7		14.9
価格が高い		12.2		12.7		11.7
保証制度が不十分		23.6		20.3		26.3
近所にリサイクル・ 中古店がない		11.8		10.5		12.8
その他		7.4		7.5		7.6

世代別

	20代以下		30代		40代		50代		60代以上	
	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%	順位	%
新品しか買わない		21.4		19.0		15.2		16.0		24.4
他人が使ったものだから		21.4		16.7		13.8		6.6		10.2
すぐ壊れそう、 性能がよくなさそう		28.6		13.5		13.8		14.2		12.6
価格が高い		14.3		12.7		13.1		15.1		7.9
保証制度が不十分		14.3		22.2		20.0		28.3		26.0
近所にリサイクル・ 中古販売店がない		-		11.1		17.2		11.3		7.9
その他		-		4.8		6.9		8.5		11.0

【4】 「リサイクル・リユース製品」

(12) 今後のリサイクル・リユース製品市場について

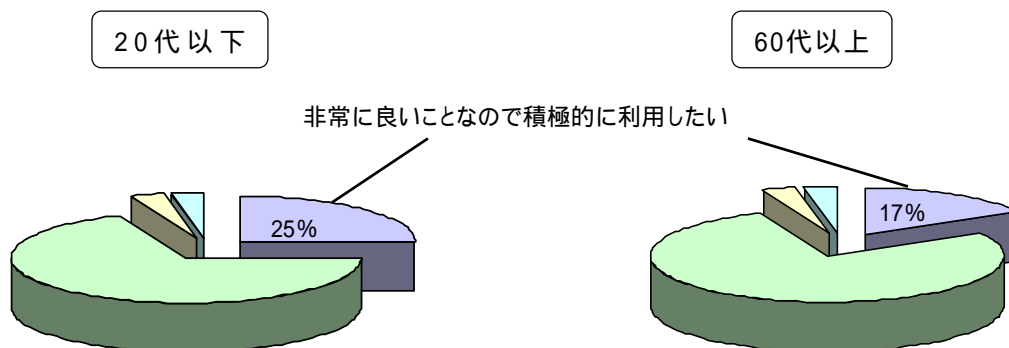
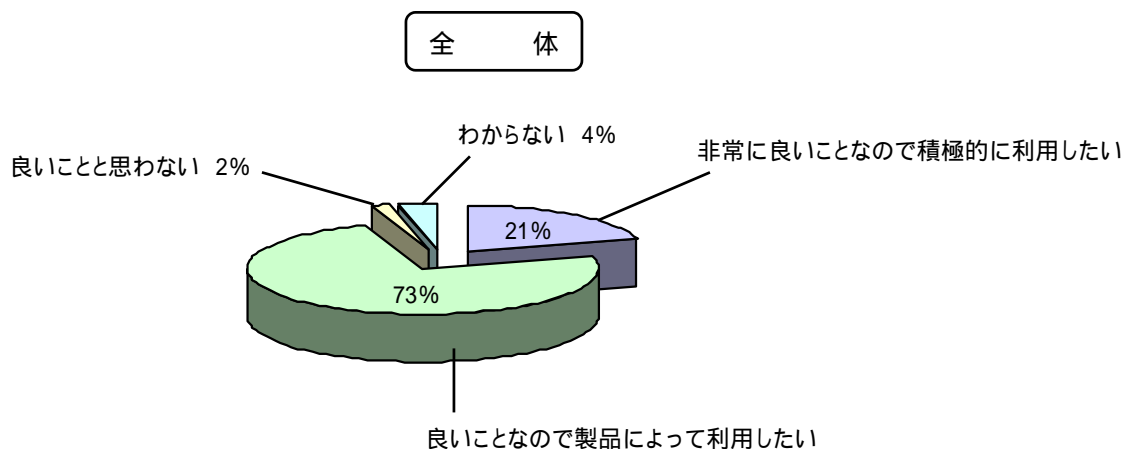
「良いことであり、製品によって利用したい」が73%でトップ

今後拡大すると思われるリサイクル・リユース製品市場についての感想を聞いた。

「良いことである」が94%だった。その内訳は「製品によって利用したい」が73%、「積極的に利用したい」が21%だった。

若い世代ほど、「積極的に利用したい」が高く、60代以上が17%であるのに対し、20代以下では25%だった。

Qリサイクル・リユース製品市場についての感想(全員:805名)



【5】「リサイクルとリユース」

(13) 自由記述

20代の意見

大量生産・大量消費で経済を成長させる時代ではない。リサイクルを含め地球環境に配慮した社会・経済システムに対応できる企業が生き残ることになると思う。

(20歳代 / 男性 / 会社員)

改めてモノの大切さを見直していく必要がまだまだあると思います。一度買ったものは少しでも長く・きれいに使い、「ここまでか？」というほど使い潰してあげると、商品も喜ぶはず。モノに愛着を持ち、自分なりにリメイクをしたりして楽しむというのも1つの手かもしれません。

(20歳代 / 女性 / 会社員)

フリーマーケットによく出品しています。自分がいらぬ物でも、他人が必要としているのが良く分かるので、リサイクルは良い活動だと思います。

(20歳代 / 女性 / 主婦)

昔は、近所や親戚などから譲り受けていた。今は核家族化が進み、そういうつながりもないので、ぜひリサイクルやリユースショップは増えてほしい。

(20歳代 / 女性 / 会社員)

リサイクルは大変重要だと思いますが、リサイクルすれば何でも大量消費してよいという社会にならないよう、必要最小限の購入やグリーン購入についても併せて評価される社会にしなければ、と思います。

(20歳代 / 男性 / 会社員)

30代の意見

電化製品は、故障しても部品の保存年限が海外製品に比べて短かったり、修理するより買い換えたほうが安くついたりすることがよくある。中古市場が広がることは良いことだが、それと同時に、長く大切に使えるような製品づくりとアフターケア体制を確立してほしい。

(30歳代 / 女性 / 主婦)

ベビー用品、幼児の玩具等、成長の一時期に必要な物は、親族からのお下がりを使用しています。

(30歳代 / 女性 / 主婦)

まだ使える物が有効利用されるのはいいことだと思う。しかし廃棄にあたり、負担する料金の妥当性や不法投棄問題なども十分対処していかないと、リサイクル社会への国民の納得を得るのは難しいと思う。

(30歳代 / 女性 / 会社員)

メーカー、販売店、消費者、行政が一体となって、リサイクルしやすい社会を作っていくことが必要。社会や仕組みを変えずに費用の押しつけ合いをしていては何も変わらない。

(30歳代 / 男性 / 会社員)

学校教育の場でもリサイクル商品をどんどん使い、子供達に物の大切さを教えるべきだと思います。人の使ったものは汚くて使えないという子供達は、飽食の時代が生み出した悲劇だと思います。

(30歳代 / 女性 / 会社員)

【5】「リサイクルとリユース」

(13) 自由記述

40代の意見

娘が一人暮らしを始めるのに伴い、新品ではなくリサイクル品を購入してみた。実際に使用して、十分使用できることが分かり、娘も物を大切にすることの意義を理解したのではないかと思う。

(40歳代 / 女性 / 主婦)

学校の制服や教科書などの再利用を真剣に考えます。特に中学校の制服などは、成長の著しい時期に何度も買い換えることは経済的にも負担です。学校が主体となってリサイクルの機会を多く持つべきだと思います。

(40歳代 / 女性 / 会社員)

リサイクル品は、前の使用者がどのような使い方をしていたかが分からなく、安全性の面で不安があるので、今まで一度も利用したことがありません。しかし、部分的に使用できる部品を再利用するなどのリサイクルについては賛成です。

(40歳代 / 女性 / 会社員)

江戸時代の人々は少ない資源を大切に使い、使い古してもうまく他にまわすなど、地域で相互支援する世界に誇るリサイクルのネットワークが行き届いていたと聞いています。物がありあまる現代は資源を枯らしていくばかりなので、これからの社会がとても心配です。

(40歳代 / 女性 / 主婦)

全国チェーンの「ブックオフ」の出現で古本のイメージが随分変わった。家電製品等のリサイクルについてもやりかた次第で一般消費者の利用が高まることは十分考えられる。家電製品もブックオフ型のリサイクルショップが身近にあったらぜひ利用したい。

(40歳代 / 女性 / 会社員)

西洋のように良いものを長く愛用したい。それが資源の少ない日本にとってもプラスのはず。そのためにはメーカーが安易なモノ作りをやめ、修理のための部品なども長く保管する姿勢が必要。

(50歳代 / 女性 / 会社員)

50代、60代の意見

先日、パソコンをリサイクルショップで購入しました。欲しかったものがあまりにも安く購入できたので驚きました。これから、スポーツ用品・健康器機など様々なものについてもリサイクル市場が本格的になればよいと思います。

(50歳代 / 男性 / 会社員)

最近のリサイクルショップは以前の古道具屋というイメージと違って明るく入りやすい。しかし、デフレ経済の中、中国製品などの安いものが洪水のように流れ込んでくると、中古品を買うより新品に買い換えたほうがましとの判断があるのも事実である。

(50歳代 / 男性 / 会社員)

私たちのリサイクルへの需要は非常に高いのに、体制整備など実際の対応は遅れている。衣類・家電・家具など、引越しの際にまだ使えるものも廃棄もしくは不当に安く処分しているのが現状である。初めは自治体を中心になってリサイクル運動を組織的に行い、軌道に乗った段階で民間に任ず方法がリサイクル普及のよい手法だと思う。

(60歳代 / 男性 / 無職)

リサイクルの普及のためには、地域社会で供給者と需要者とのネットワークがあると便利だと思います。

(60歳代 / 女性 / 主婦)

私たちは「物豊かにして心空しい」国を作ってしまったのではないか。発展途上国との比較でいえば、これから先も現在の生活レベルを維持できるとは思わない。物を大切にするというリサイクルの考えは当然だし、もっと質素に生活すべきだと思う。

(60歳代 / 男性 / 無職)

アンケート 「リサイクルとリユース」結果報告書

発行 / 財団法人 経済広報センター

担当 国内広報部 広聴グループ(林、山田)

〒100 - 0004 東京都千代田区大手町1 - 6 - 1 大手町ビル 7階

TEL:03 - 3201 - 1412 FAX:03 - 3201 - 1404

e-mail:kochonet@kkc.or.jp

発行日 / 2002年6月